

こどものまなざし



2023年5月
<9号>

～文字・点字学習を始める準備～

本校の乳幼児教育相談に通われている保護者の方から、時々次のような言葉を聞くことがあります。「盲学校」だから、目が見えない人達が通っているかと思っていました。」

確かに、目が見えない方も通われていますが、(全く)見えないのではなく、見えにくさがある方も通われています。そして、その見えにくさは人それぞれです。

中心付近が見えない
見える範囲が少ない
すりガラスを通して見ているよう
とってもまぶしい
暗いところで見えなくなる etc.

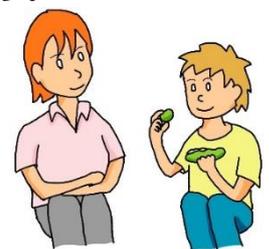
これらは一例で、人によっては複数の症状を併せ持っている場合もあります。また、「点字をやらないといけないですか。」と尋ねられることもあります。これも人それぞれで、点字を使う人もいますが、普通の文字を拡大して使う人もいます。そのため、盲学校では、同じ教室で学んでいても、点字教科書を使う子ども、文字を拡大した教科書を使う子どもがいます。

最近では、小学校に入る前にはひらがなを読めるようになってきているお子さんいるので、保護者の方の中には、「早く読み書きができるようにならないと！」と焦ってしまう方もいるかもしれません。しかし、乳幼児段階では、小学校に入る前後で文字(や点字)を学んでいく準備として、子どもが自分のペースで色々なことに興味をもって関わっていく気持ちを育てます。おもちゃ、日用品などをたたく、握る、つかむ、押す、引っ張るなどの動作や、音や手ごたえによってその動作の結果が分かるような経験を積むことで、読み書きといった学習に通じる土台を作っていきます。

～野菜の収穫体験～

5月のある日、幼児さんたちとソラマメを収穫する機会がありました。ソラマメは見えにくさがあるお子さんにとっても、実際の姿かたちをイメージしやすい野菜です。なぜなら、野菜の中でも、カボチャやキャベツといった大きな野菜は、調理をすると畑になっているときとは形も大きさも異なってしまいましたが、ソラマメは収穫から口にするまで形が変わらないからです。

後日、ご家庭で食べたかどうか尋ねたところ、あるお子さんからなんと「酒蒸しにして食べました。」との返事がありました。“サカムシ”という言葉が幼児さんから聞くとはいないだったので、一瞬耳を疑ってしまいましたが、きっとご家庭で、保護者さんが丁寧に説明しながら一緒に調理をされたのでしょう。だからこそ、そのような耳慣れない言葉が、お子さんの記憶に残っていたのだと思いました。



一緒に調理をするという体験は、食べてみたいという興味を持たせやすく、皮をむいたり洗ったり、お鍋に水を入れたり、火にかけたりといった手先を使う経験、そして、何をしているのかお話ししてあげたりすると、言葉を覚える機会の1つとなります。こうした身近な体験をたくさん積むことが、文字・点字学習を始めるための大切な準備(レディネス)となっていきます。

